

# AYA 世代の整形外科医療

この度、「AYA 世代の整形外科医療」をテーマとした特集が刊行される運びとなりました。AYA 世代 (adolescent and young adult) は、思春期から若年成人期 (15～39 歳) を指す、主に「がん」の領域で使われ出した言葉です。学業、就職、恋愛、結婚、出産など、様々なライフイベントが集中する時期なので、患者さんそれぞれの社会的背景を考慮した医療の必要性が再認識され、今、注目されている世代です。一方、われわれの扱う運動器は、成長軟骨板のある小児や変性が問題となる高齢者がターゲットとされがちで、この世代を包括的な概念として捉えてはいないと思います。誕生の瞬間から人生の全期間を対象とするわれわれの分野だからこそ、日常生活レベル (ADL) に大きな影響を及ぼす運動器疾患を横断的に「AYA 世代」という視点から捉え直し、適切な整形外科医療を提供することは重要な使命であると考えます。

本特集では、AYA 世代において特に重要と思われる運動器にテーマを厳選し、それぞれの分野で活躍する第一線のスペシャリストによる総説を掲載しました。グルココルチコイド誘発性骨粗鬆症のガイドライン策定に関わった窪田拓生先生や、小児科とともに多くのリウマチ性疾患の診療に携わる小児整形外科の瀬川裕子先生、AYA 世代の悪性骨軟部腫瘍サバイバーの ADL 向上に取り組む岩田慎太郎先生、陸上競技のトップ選手の相対的エネルギー不足と疲労骨折などコンディションづくりに携わる金子晴香先生が、素晴らしい総説を寄せてくださいました。また、同じ疾患であっても年代により選択すべき手術法が異なる前十字靱帯損傷と膝蓋骨脱臼、股関節疾患、麻痺性疾患はそれぞれ吉田圭一先生、加藤 英先生、大島洋平先生が、ご自身のご経験を余すことなく伝える、明日からの診療に役立つ総説を寄せてくださいました。そして前座として、私自身の専門である AYA 世代の骨粗鬆症を、peak bone mass 獲得から閉経までの維持期の重要性という観点から書かせていただきました。多忙な臨床や研究の合間を縫い、AYA 世代における医療の現状と課題、そして未来の展望を明確かつ実践的に示していただいた執筆者の皆様に、深く感謝申し上げます。

AYA 世代に特化した整形外科医療の取り組みは、まだ発展途上にある分野ではありますが、今回の特集号がこの分野への理解と診療の質の向上をさらに推進し、患者さんの生活の質を向上させる一助となることを願ってやみません。最後になりますが、本特集の編集と制作にご協力いただいたすべての方々に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。本特集を通じて、読者の皆様が新たな知見を得るだけでなく、AYA 世代の患者に寄り添い、その未来を支えるためのヒントを得ていただければ幸いです。

(坂本優子)